

(一八六四)

二〇三 元治元年八月 一宮貫前神社の手代奉公人請状〔B〕

御請状之事

一此度、私^{せがれ}忝^{うま}右馬之輔義、御手代^{てだい}御奉公^{ほうこう}ニ差上候^{さしあ}処、実正^{じつしよう}ニ御座候、御給金^{きゅうきん}之儀者、御檀廻^{だんまわり}取揚^{とりあ}り之、高下^{こうげ}を以、時々御下ケ相成候段、難^{がた}有奉^{ほう}存候、然ル上者、御用大切^{ごようたいせつ}ニ相勤、廻村^{かいそん}先^まニをいて、聊^{じざい}自在^{じざい}之取計仕間敷候、万々^{よろこ}一取逃^{とりのが}欠落^{かけおち}等仕候節者、当人者不^なレ及^{およ}ニ申上^{まを}、品々尋出し差出し可^べレ申候、其節^{ふじつ}不^ふ実意^{じつい}之取計仕候節者、何様之儀ニ被^まニ仰付^{おほ}候共、一言違^{いちごんい}背^{はい}仕間敷候、為^なニ後日^{ごにち}御請状^{ごにんじょう}差上置候^{さしあ}処、仍^{なほ}而^{ごと}如^{ごと}レ件

多胡郡

川内村

元治元年

八月日

天社神道

右馬之助父
松尾

唯之進^{唯之進}印

右村

証人

吉右衛門^{吉右衛門}印

一ノ宮

尾崎様

御用人衆中